

【 2026年 テニスルールブック 主な改定点（抜粋） 】

	<p><b>記載の変更（旧）→（新）</b></p> <p>チェアアンパイア      主審  ラインアンパイア      線審  ネットアンパイア      ネット審  プレーヤー              選手</p>
P45	<p><b>Q7) 電子機器の使用</b></p> <p>ITF(国際テニス連盟)の大会で着用が認められている、データを確認する画面の付いていないWhoopデバイスは着用することができる ※Whoopデバイスとは、睡眠・回復・身体的負荷を24時間365日追跡・分析し、心身のパフォーマンス向上をサポートする画面なしのウェアラブル端末のこと</p>
P124	<p><b>26. トイレットブ레이크と着替え</b></p> <p>トイレットブ레이크は男女ともにセットブ레이크時に指定された近くのトイレで取ることができる。ただし状態が深刻であると審判員が判断した時は、緊急措置としてトイレットブ레이크を認める</p>
P124	<p><b>オフコートコーチング</b></p> <p>ITFのルールオブテニス規則 30コーチングの変更に伴い、オフコートコーチングを不採用、または内容の変更を希望する大会は、開催要項にその内容を記載しなければならない</p> <p>●記されているが、日本女子テニス連盟ではオフコートコーチングは採用しない。</p>
P195	<p><b>主審の付かない試合でのセルフジャッジの方法</b></p> <p>12) c. 「フットフォールト」はレフェリー(アシスタントレフェリー)、ロービングアンパイアのいずれか。但し、コートの外からコールをする場合は、選手に周知していることを条件とする</p>
P196	<p><b>2. レフェリー、アシスタントレフェリー、ロービングアンパイアの仕事</b></p> <p>9)必要があれば、コート内外からフットフォールトのコールや選手・チームの判定をオーバールールできる  しかし選手・チームからのアペールの後にオーバールールすることはできない</p>
P197	<p><b>コール(判定)に関するトラブル</b></p> <p>c. レフェリー(アシスタントレフェリー)、ロービングアンパイアのいずれかがコート外にいて目に余るミスジャッジを目撃した場合は、コートへ入り、<u>返球が正しく相手コートに入った場合は故意ではない妨害(1回目)としてポイントレットにする</u>。ただし、ミスジャッジの前に打たれたボールが明らかなウイニングショットまたはエースだった場合は、ミスジャッジをした選手・チームの失点となる。</p>
P198	<p><b>SCUが付く試合での判定</b></p> <p>2)選手自身でコールを訂正した場合は、セルフジャッジの方法 15) <u>誤ったコールを訂正した場合(クレールコートは除く)に従う</u></p>